



平成22年度（第19回）
那覇市民意識調査報告書



2010年（平成22年）12月

那 覇 市



はじめに

那覇市では、市民の皆様の日常生活に関する意識と、市政運営に対する満足度と重要度についての評価を把握・分析して今後の市政運営に反映させるため、隔年ごとに市民意識調査を実施しています。



今回の調査では、市政全般に関するものから個々の政策についての評価まで、多岐にわたる調査を実施しましたが、多くの市民の皆様のご理解とご協力により、有意義な調査結果を取りまとめることができました。心より感謝申し上げます。

第4次総合計画もまもなく4年目に入りますが、この調査結果を踏まえて、目標として掲げた6つの都市像の実現に向け、しっかりと取り組んでいきたいと考えております。

21世紀のまちづくりは、行政主導ではなく、「市民との協働」により進められなければなりません。調査にご協力いただいた市民の皆様には、重ねて御礼申し上げますとともに、本市の進める協働の取り組みにも積極的なご参加をお願い申し上げ、巻頭のあいさつといたします。

2010年（平成22年） 12月

那覇市長 翁長 雄志

I. 調査の設計と実施概要

1. 調査の目的

この調査は、日常生活に関する市民意識を把握するとともに、市が取り組んでいる政策に対する市民満足度と重要度についても把握・分析し、今後の市政運営に反映させるための参考資料とするものである。

また、第4次那覇市総合計画の進捗管理のため、施策ごとに設定された指標についても、本市民意識調査で行うと決定しているものについて、引き続き調査を実施した。

2. 調査項目

調査項目は、クロス集計による分析のための基本項目調査も含め、これまで通り、以下の4項目で構成した。

なお、設問の詳細と内容については、各部局へ照会を実施して、内容を確定させた。(質問総数は、分岐質問4問を含め、合計75問)

(1) 基本項目

- 1) 性別
- 2) 年齢層
- 3) 那覇市における居住年数
- 4) パソコンの有無(インターネット接続の有無)

(2) 日常生活に関する意識調査について

- 1) 住み心地について
- 2) 地域の自治会について
- 3) とおり近所付き合いについて
- 4) 市政への市民参加について
- 5) 都市計画について
- 6) 職員の対応について
- 7) 市街地活性化について
- 8) 福祉について
- 9) 子育て支援等について
- 10) 平和行政・男女共同参画について
- 11) 消防行政について
- 12) 上下水道について
- 13) その他

(3) 第4次総合計画の指標調査について

- 1) まちづくりに参加している市民の割合
- 2) 市政運営に対する満足度
- 3) 平和の発信・国際交流についての市政への満足度
- 4) 男女の地位が平等だと感じる人の割合
- 5) 市からの情報提供についての満足度

- 6) 行政サービスに満足している人の割合
 - 7) 電子行政サービスを利用したことがある人の割合
 - 8) 自分の適性体重に見合った食事量を理解している人（成人）の割合
 - 9) かかりつけ医を決めている人の割合
 - 10) バリアフリーに配慮されていると感じる人の割合
 - 11) 障がい者が共に暮らせる環境づくり満足度
 - 12) 「困ったときに助けてくれるまちである」と感じている人の割合
 - 13) 地球環境保護のための実践項目数
 - 14) 生涯学習施策に関する市民満足度
 - 15) 子育て施策に対する満足度
 - 16) 身近な道路の快適さ・使いやすさについての満足度
 - 17) 交通手段に占める自家用車の割合
 - 18) 自然と調和したまちづくりだと感じている人の割合
 - 19) 地域に合ったまちづくりがされていると感じる人の割合
- (4) 市の政策に対する満足度・重要度調査について
- 1) 協働によるまちづくり
 - 2) 幸せ感のあるまちの創出
 - 3) 平和交流・男女共同参画
 - 4) 市民に開かれた効率的な行政
 - 5) 健康づくりと地域医療の充実
 - 6) ユニバーサルデザインのまちづくり
 - 7) とともに生きる心を育てる
 - 8) 地域の支えあい
 - 9) 自立を支援するサービス提供
 - 10) 地球環境への配慮
 - 11) 資源循環型社会
 - 12) 自然環境の保全・再生・創造
 - 13) 衛生的な環境の確保
 - 14) 生涯学習の推進と地域の教育力の向上
 - 15) 子育て支援と就学前教育・保育
 - 16) 子どもの視点に立った環境づくり
 - 17) 文化の継承と発展
 - 18) 産業の振興
 - 19) まちの活性化
 - 20) 就労支援・相談体制
 - 21) 都市防災と防犯
 - 22) 市街地の整備
 - 23) 交通体系の整備
 - 24) 上下水道の整備
 - 25) 自然と調和したまちなみ

III. 基本調査結果

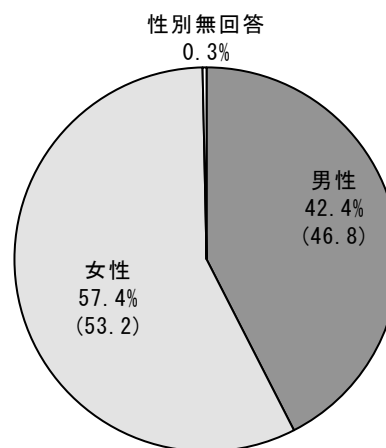
質問1. あなたの性別は？（1つ選択）

1. 男性 2. 女性

選択項目	回答数
男性	800
女性	1,083
性別無回答	5
合計	1,888

性別の回答数については、「男性」800人（42.4%）、「女性」1,083人（57.4%）、「無回答」が5人（0.3%）である。

男女比については、概ね那覇市の現状に近い標本比率が確保されたと判断される。



（ ）は送付率

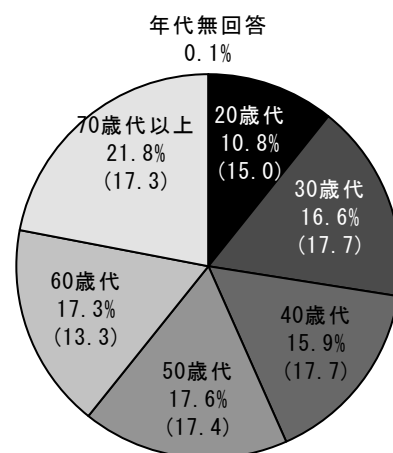
質問2. あなたの年齢は？（1つ選択）

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代
5. 60歳代 6. 70歳以上

選択項目	回答数
20歳代	203
30歳代	314
40歳代	300
50歳代	333
60歳代	326
70歳代以上	411
年代無回答	1
合計	1,888

年齢別では、「70歳代以上」と「60歳代」が高い回収率を示したため、当該年代の割合が高まっている。

それでも、全体的な年代別の割合としてはほぼバランスが取れており、年代別の比率についても概ね那覇市の現状に近い標本比率が確保されたと判断される。



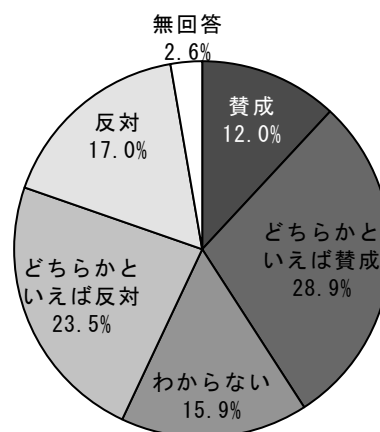
（ ）は送付率

質問 25. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に対する、あなたの考えを次の中から、1つお選びください。

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. わからない
4. どちらかといえば反対 5. 反対

夫が外で働き妻は家庭を守るべきという考えに賛成の市民は 40.9%、反対の市民は 40.5%

選択項目	回答数
賛成	227
どちらかといえば賛成	546
わからない	301
どちらかといえば反対	443
反対	321
無回答	50
合 計	1,888

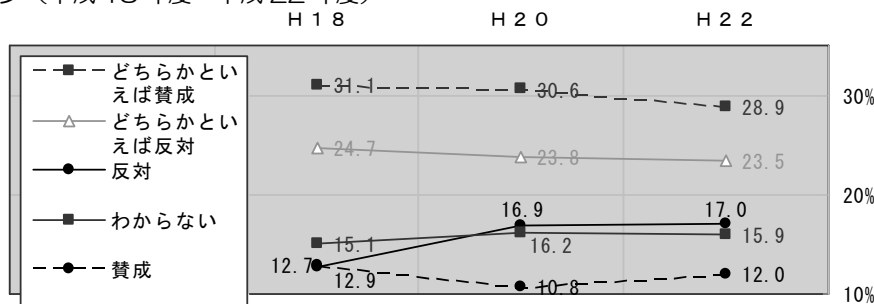


男性が外で働き、妻は家庭を守るべきという考えで最も多い回答は「どちらかといえば賛成」の 28.9%、次に「どちらかというと反対」の 23.5%、「反対」の 17%、「わからない」の 15.9%、「賛成」の 12%という結果となった。その中で、「どちらかといえば賛成」「賛成」を合計すると 40.9%、「どちらかといえば反対」「反対」を合計すると 40.5%と、0.4 ポイント「賛成」という意見が上回る結果となった。

また今回自由記載はないが意見の書き込みをして頂いた市民の声を下記に掲載した。

- ・その家庭のスタイル・状況による (20代男性) (70代以上女性)
- ・理想は誰か家に居るべき(子供のためにも)だが低所得の沖縄ではムリ。共働きしないとやっていけない (20代女性)
- ・金銭的ゆとりがあれば夫が働き、妻が家を守ってもよいのでは (60代女性)
- ・夫、妻の役割を決めつけず、力のある方が働きに出る方が良いと思う。(60代女性)
- ・妻に限らず、どちらか一方が、家庭を守れば良いのでは? (60代女性)

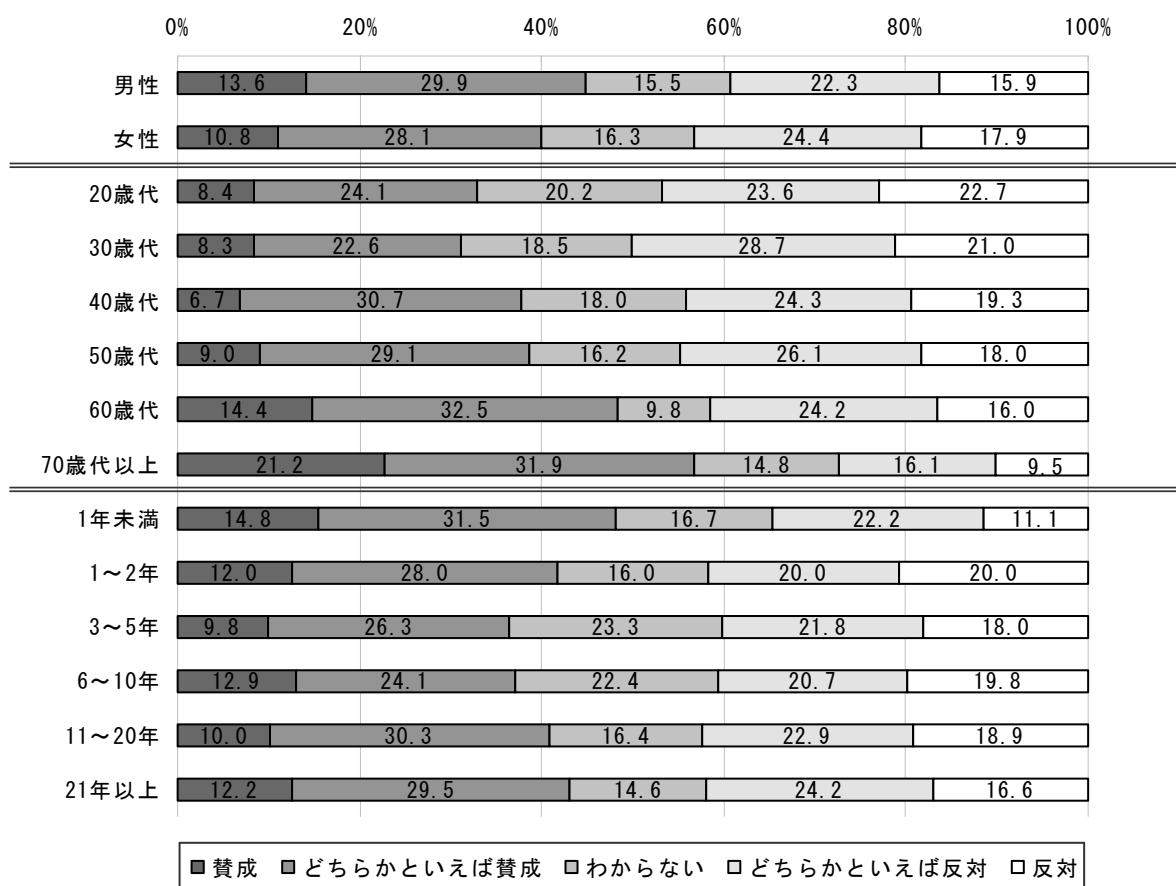
経年変化グラフ (平成 18 年度～平成 22 年度)



「賛成」は 1.2 ポイントの増加にとどまったが、「どちらかといえば賛成」を含めた割合では、減少に転じている。H18 年度からみると、ゆるやかではあるが、古い家庭観念は少しずつ変わりつつあるといえる。

属性別集計表・グラフ（属性無回答分除く）

回答者属性 (n=合計)	賛成	どちらかといえ ば賛成	わからない	どちらかといえ ば反対	反対	無回答
1. 男 (n= 800)	109	239	124	178	127	23
2. 女 (n= 1,083)	117	304	177	264	194	27
1. 20代 (n= 203)	17	49	41	48	46	2
2. 30代 (n= 314)	26	71	58	90	66	3
3. 40代 (n= 300)	20	92	54	73	58	3
4. 50代 (n= 333)	30	97	54	87	60	5
5. 60代 (n= 326)	47	106	32	79	52	10
6. 70代 (n= 411)	87	131	61	66	39	27
1. 1年未満 (n= 54)	8	17	9	12	6	2
2. 1~2年 (n= 75)	9	21	12	15	15	3
3. 3~5年 (n= 133)	13	35	31	29	24	1
4. 6~10年 (n= 116)	15	28	26	24	23	0
5. 11~20年 (n= 201)	20	61	33	46	38	3
6. 21年以上 (n= 1,286)	157	380	188	311	213	37



性別でみると、「賛成」という意見は、男性のほうが女性より2.8ポイント高く、「どちらか」といって賛成」まで合計すると、男性のほうが4.6ポイント高い。

年代別では、「どちらか」といって賛成」「賛成」の合計は70代以上が最も高く53.1%となっており、一番低い30代と22.2ポイント差が出る結果となった。

(4) 男女の地位が平等だと感じる人の割合（指標番号 11）

政策体系	都市像：心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市
	政策：平和交流・男女共同参画
	施策：男女共同参画社会の実現をめざす

質問 35. 社会全体でみた男女の平等について、あなたはどのように思いますか。

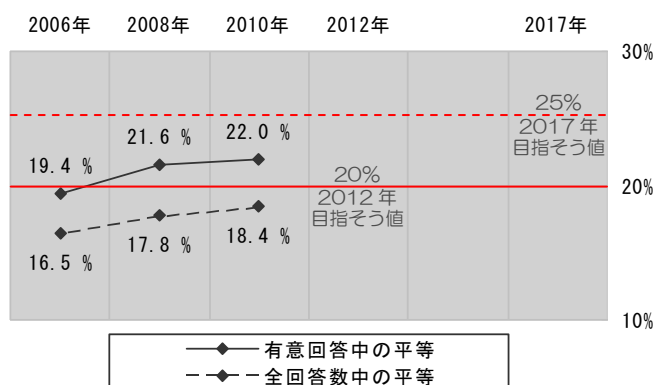
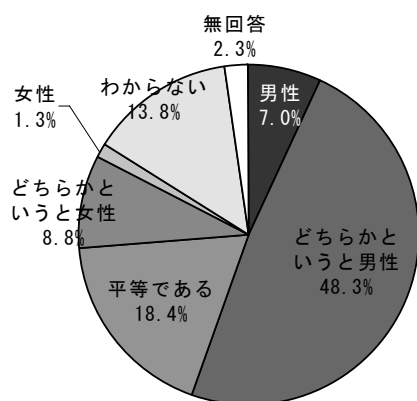
1. 男性の方が非常に優遇されている
2. どちらかという、男性の方が優遇されている
3. 平等である
4. どちらかという、女性の方が優遇されている
5. 女性の方が非常に優遇されている
6. わからない

【今回調査における指標「めざそう値」の達成状況】

選択項目	回答数 平成22年度	回答数 平成20年度	前回調査比	有意回答数 (%)	めざそう値 (%)
男性の方が非常に優遇されている	132人 (7.0%)	144人 (8.9%)	-1.9%	1,044人 (65.9%)	2012年目標 (20.0%) 2017年目標 (25.0%)
どちらかという、男性の方が優遇されている	912人 (48.3%)	819人 (50.5%)	-2.2%		
平等である	348人 (18.4%)	289人 (17.8%)	0.6%	348人 (22.0%)	
どちらかという、女性の方が優遇されている	167人 (8.8%)	25人 (1.5%)	7.3%	192人 (12.1%)	
女性の方が非常に優遇されている	25人 (1.3%)	63人 (3.9%)	-2.6%		
有意回答 計	1,584人 (83.8%)	1,340人 (82.6%)	-	1,584人 (100%)	
わからない	260人 (13.8%)	255人 (15.7%)	-1.9%	-	
無回答	44人 (2.3%)	28人 (1.7%)	0.6%		
合計	1,888人 (100%)	1,623人 (100%)	-		

今回「平等である」と回答した市民の割合は、回答数全体では 18.4%だが、有意回答数では 22%で、2012 年の「めざそう値」に達している結果となった。線グラフから推測すると 2017 年のめざそう値達成のためには、さらに力を入れた取り組みが必要かと考える。

円グラフでみると、男性優遇の合計が 55.3%と過半数以上を占める結果となっていることから、平等意識が広がりつつあるものの、男性優遇の意識が市民の間で依然根強く残っていることがわかる。



男女の地位が平等だと感じる市民は 18.4%(有意回答で 22%)で、2012 年のめざそう値達成は目前である

[今後の課題]

●男女の地位についての男女別によるクロス集計分析（有意回答のみで割合算出）

選択項目	男 性		前回調査比	女 性		前回調査比
	平成22年度	平成20年度		平成22年度	平成20年度	
男性・どちらかというと男性が優遇されている	387人 (55.2%)	348人 (61.6%)	39人 -6.4%	655人 (74.3%)	600人 (79.9%)	55人 -5.6%
平等である	203人 (29.0%)	167人 (29.6%)	36人 -0.6%	145人 (16.5%)	116人 (15.4%)	29人 1.1%
女性・どちらかというとな性が優遇されている	111人 (15.8%)	50人 (8.8%)	61人 7.0%	81人 (9.2%)	35人 (4.7%)	46人 4.5%
合 計	701人 (100%)	565人 (100%)	—	881人 (100%)	751人 (100%)	—

男性は平等であると回答している割合が 29%に対して、女性は 16.5%と、全体ではクリアしていた 2012 年の目指そう値も、女性だけではクリアできていない結果となった。

男女共に過半数以上が男性優遇と答えている点は前回と変わらないが、男女共に女性が優遇という割合も増加しており、社会全体として女性の地位向上に動いている結果と考えられる。

平等と思う人の割合は、女性のみが増えており、男性は逆に減少していることから推察すると、男性の一部は、平等を越えて女性優遇に動いていると反発している様子が伺える。

●男女の地位についての年代別クロス集計分析（有意回答のみで割合算出）

選択項目	20代 (%)	30代 (%)	40代 (%)	50代 (%)	60代 (%)	70代 (%)
男性・どちらかというとな性が優遇されている	106人 (63.1%)	180人 (67.4%)	190人 (63.8%)	192人 (67.8%)	190人 (66.9%)	185人 (57.8%)
平等である	25人 (14.9%)	48人 (18.0%)	41人 (13.8%)	63人 (22.3%)	66人 (23.2%)	105人 (32.8%)
〃 (H20)	(11.8%)	(14.5%)	(12.8%)	(15.6%)	(17.6%)	(26.0%)
女性・どちらかというとな性が優遇されている	37人 (22.0%)	39人 (14.6%)	67人 (22.5%)	28人 (9.9%)	28人 (9.9%)	30人 (9.4%)
合 計	168人 (100%)	267人 (100%)	298人 (100%)	283人 (100%)	284人 (100%)	320人 (100%)

年代別の分析では、「めざそう値」の 20%を超えたのは、50代以上で、20～40代の年代は軒並み 20%以下の数値となった。

最も平等と回答した割合が低い世代は 40代と 20代で、前回調査でも同様の結果が出ている。中でも 40代は増加率も悪い結果となっており、社会構造的にそのように意識させる何かが、その年代に存在することを匂わせる結果となっている。

次回調査において、その理由等を確認することが必要と考えられる。

都市像：心地よいつながりでつくる自治・協働・平和都市

政策：平和交流・男女共同参画

質問53. 「平和交流・男女共同参画」（平和学習、国際交流の推進等）の政策について、どう思いますか。

(満足度) 1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない
 (重要度) 1. 高い 2. まあ高い 3. やや低い 4. 低い 5. わからない

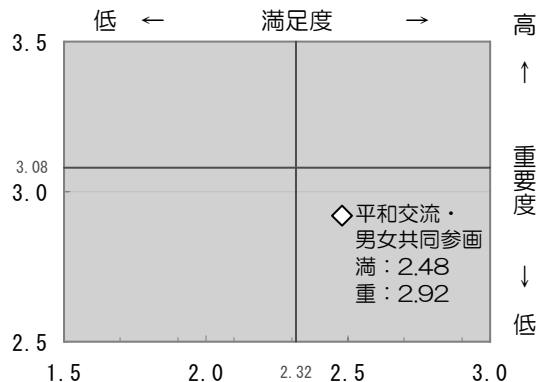
(満足度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
満足	37人	(2.0%)	478人 (54.8%)
まあ満足	441人	(23.4%)	
やや不満	298人	(15.8%)	
不満	97人	(5.1%)	
合計	873人	(46.3%)	873人 (100%)
わからない	938人	(49.7%)	-
無回答	77人	(4.1%)	
合計	1,888人	(100%)	

(重要度)

選択項目	回答数	(%)	有意回答数 (%)
高い	294人	(15.6%)	819人 (73.6%)
まあ高い	525人	(27.8%)	
やや低い	209人	(11.1%)	294人 (26.4%)
低い	85人	(4.5%)	
合計	1,113人	(59.0%)	1,113人 (100%)
わからない	653人	(34.6%)	-
無回答	122人	(6.5%)	
合計	1,888人	(100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布図



集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が54.8%、「やや不満」以下が45.2%となっている。重要度では、「まあ高い」以上が73.6%で、「やや低い」以下が26.4%となった。

全政策評価の平均値を中心とした相対評価として見た場合、市民は「平和交流・男女共同参画」の政策について、満足度は高めだが、重要度は低めに見ているといえる。

「平和交流・男女共同参画」の政策については、重要性について市民意識をさらに高めるための取り組みが必要と判断される。